

これまでの100年、これからの100年

先月のコラムでもお伝えした5月25日（日）福岡県豊前市の姉妹園 清高りとるぱんぷきんずで、法人100周年を記念するイベント・式典・新園舎竣工式がおこなわれた続報です。令和5年から卒園児の方々が中心となり準備を進めてきたこのイベントには関東の職員も準備に携わりました。前回もお知らせした通り、100周年の記念に伴い、2つのアートを作成していただきました。

100周年を記念したアート 【慈悲の抱擁】



アーティスト：マーク・イヤファーさん

理念のアート 【曖昧06 “colorful”】



アーティスト：佐々木 香菜子さん

これを作成して頂く前に、アーティストの方に私達の想いを知ってもらうためのワークショップが開かれ、『これからの子ども達や保育、法人に対する想い』を語り合いました。「法人理念を色で表すとどんな色？」と考えてみたり「子ども達の未来と個性が輝く場所であってほしい」「保育だけにとどまらず、何にでも挑戦出来る組織でありたい」と伝えたり…そんな私達の想いを受けて、2名のアーティストの方が表現してくださいました。

近年『論理的な思考だけでは成立出来ない予測不可能な世界情勢』と言われる中で、常識に捕らわれず自由な発想で“ゼロから1を作る”【アート思考】が求められています。保育でも「豊かな感性を育む」ことを大切にしているため、臨床美術を基にした“あるて”の活動で、子ども達がアートに触れる機会を設けています。今回のようなアートを基に子ども達の未来について語り合える機会があったことは、法人にとっても有難いことでした。

さて姉妹園のイベントとして、今年4月に横浜りとるぱんぷきんずでも開園20周年の同窓会が開催されました。

子ども達は大学生など成長し、すっかり変わってしまいましたが、保護者の皆さんはすぐにはわかりました(笑)

数年ぶりにお会いした卒園児や保護者の方から「今、振り返ってもこの園で過ごせて幸せだった」と嬉しい言葉もいただき、懐かしい楽しい一日でした。

乳幼児期の大切な時間を園で一緒に過ごし「こんなことしたな」「楽しかったな」と振り返ってもらえるのは、本当に幸せで保育士冥利に尽きます。

これからも皆さんと一緒に、心に残る時間を紡いでいきたいです。

そして長く愛され続ける法人、園を目指してまいります。

(加賀谷)

